



## 鎌倉殿ウォーキングツアー体験 (PART 2)

大河ドラマもいよいよ最終回へと残すところあとわずかとなりました。  
12月9日(金)鎌倉時代から時空を超え、当時と同じ初冬の茜色の未来の鎌倉(現在)を6人の歴史「見返り美人」元ガイドさんたちと一緒に歩き、大河ドラマ館で烏帽子帽をかぶり、鎌倉殿気分になり楽しむことができました。そして八幡宮前の「鶴八」でみんな一緒に天ぷらそばを食べ交流を深めました。更に、今回も新たな発見がありました。段葛の横、「鶴八」の並びには鎌倉にゆかりのある隈研吾設計のBAM博物館(英国アンティークミュージアム)がオープンしていました。外壁は、くぼみのある鎌倉彫をモチーフにした檜作りだそうです。覚園寺の薬師堂の天井には足利尊氏の謹書(自筆の意味)文字に目を凝らし室町の息吹を感じ、黒地蔵や川端康成が3年近くお寺のそばに居住したころお気に入りだったという「鞆(さや)阿弥陀仏」にもご対面したり、実朝の歌碑も見つけ当時の思いを感じてきました。

「山はさけうみはあせなむ世なりとも君にふた心わがあらめやも」(実朝歌碑より)

### あ・と・が・き

北条一族が必死に鎌倉を守った魂は覚園寺で前回出会った黒猫に乗り移りいまだに縄張り争いを繰り返しながら、つかの間の日向ぼっこを楽しんでいました。

武将たちの様々な怨霊は猫に化身し永遠に生き続けているのです・・・

戦い敗れた武士の遺骨が山々で発見されず現在も多数埋もれているとのこと。雨で濡れた鬱蒼とした谷戸の湿気と静まり返った暗闇の夜には、どこからともなく不思議な現象が起ると昔から言い伝えられている鎌倉!

訪れた人々の背後に憑いて来て、我々の身近な生活の中にもふと顔を出すかもしれません!

丑三つ時、玄関のチャイムが鳴り、荷物が置かれているのはきっとクロネコの仕業だと思います。(怖いですね!キヤットしましたか?)・・・

【覚園寺の黒猫に義時は今も・・・怪談にもたれ過去からこちらを覗いています】



「いにしへの 武士の都の もみじ狩り 栄華の葉ぶり 吹く風に散る」  
(詠み人:鎌倉小町・・・?)

寸評:名人曰く、

まるで、真夏に「うちわ」がないようダ!う～ん セ・ン・スがないな!

超お粗末なポンコツ同行記「あ・と・が・き」でした。

《スナップ写真集》

【出発横断歩道前の補導?・・・】



【八幡宮大銀杏】



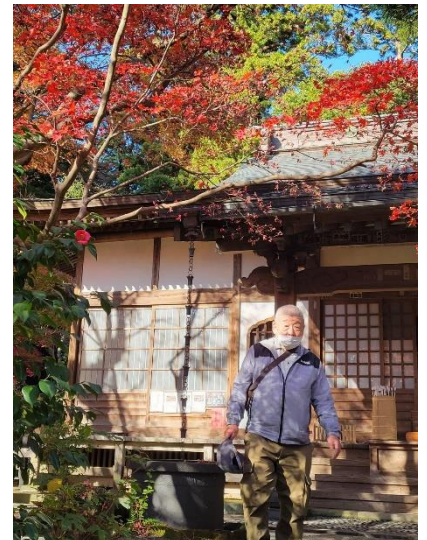
【覚園寺】



【三匹の侍】



【覚園寺 男一人旅(イメージ)】



【女鎌倉殿姉妹】



【永福寺跡】



【落書き帳】



江戸の「見返り美人」

← 八重か？

アイ~ ♥ →

← こっちゃん来い！



← 義時だ！“可愛い八重か？”

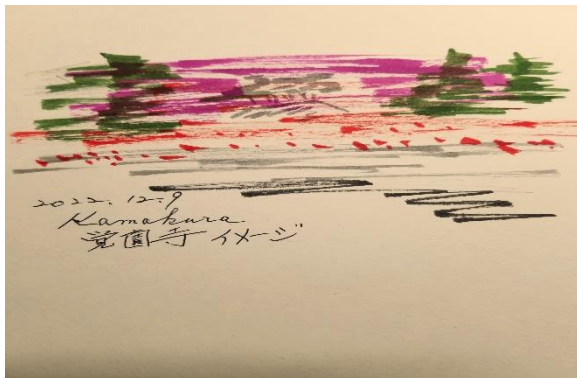
はあ~? →

よく言われるの~!  
八重歯がかわいい~って! →

← ...! ???



令和の「見返り美人」



俺はゴルゴ13 (サーティーン)  
作成者のお前は、だれだ...!?



俺か?...う~ん

「ゴディバ31 サーティ・ワン・アイスクリーム」だっ!?  
ぺろっ~と舐めんなよ!!

FIN...おわり

次回の鳩友会旅行をお楽しみに~!